シンポジウム



４．歯科医師会の立場から

佐々木　勝忠

奥州市国保衣川歯科診療所　所長

国保衣川歯科診療所では、岩手医大歯学部 5 年生の地域医療体験実習（1 日）を引き受けています。しかし、超高齢社会、地域連携歯科医療を実習体験してもらう 1 日のスケジュール（当日の都合で内容変更あり）を下記に示しますが、超過密スケジュールにならざるを得ません。

時　間	内　容	備　考
8:30～9:00	症例検討	口腔機能の障害について学ぶ
9:00～10:30	地域・施設見学	保健・福祉・医療の一体化された施設を考える
10:30～12:00	医科放射線 CT 見学	脳 CT の見方などを放射線技師より指導受ける
12:00～12:30	特養ホーム見学	症例検討した入所者の見学、ムース食の試食
12:30～13:30	昼食	
13:30～14:30	医科歯科連携講話	医科歯科連携がどのように進むか考える
14:30～16:30	岩手県立胆沢病院 NST 回診	病院での医科歯科連携から今後の連携を知る
16:30～17:30	水沢総合病院口腔ケア指導	病院での口腔ケアの指導を確実に行える

過密スケジュールで何を教えようとしているかを下記にまとめてみました。

超高齢化社会　☜ 障害のない高齢者、障害のある高齢者
※超高齢者歯科の重要なキーワード「経口摂取・栄養」
・実際の症例（あるいはビデオ症例）
・提示する症例の全身臨床的意味付け
・提示する症例の歯科臨床的意味付け

地域連携歯科医療　☜ 他職種との連携現場見学
※医科（病院）との NST 連携
※介護福祉（特養ホーム）との連携

どのような実習であるかを一部紹介しながら、本年度 4 組 8 名の学生の実習後の感想文から本実習のあり方などを自分なりに評価してみたいと思います。

略　歴

出身地　岩手県盛岡市

学　歴　昭和 52 年 3 月　岩手医科大学歯学部卒業

職　歴　昭和 52 年 4 月　岩手医科大学小児歯科
昭和 55 年 4 月　衣川村国保衣川歯科診療勤務
（昭和 63 年 4 月 1 日、衣川村国保衣川歯科診療所、
平成元年 2 月 20 日、奥州市国保衣川歯科診療所組織替え）
現在に至る

現在の役職（平成 26 年度末）

岩手医科大学歯学部非常勤講師	平成 15 年 4 月　～
岩手県歯科医師会口腔保健センター運営委員	平成 18 年 4 月　～
岩手医科大学歯科医師臨床研修委員会委員	平成 18 年 6 月　～
岩手医科大学歯学会評議委員	平成 19 年 4 月　～
日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院・施設協会口腔ﾘﾊ推進委員	平成 19 年 7 月　～
岩手県歯科医師会理事	平成 21 年 4 月　～
日本歯科医師会在宅歯科医療推進チーム	平成 21 年 5 月　～

ＩＴを活用した超高齢社会の到来に対応できる
歯科医師の養成

第2回シンポジューム

「 歯科医師会の立場から 」

岩手県奥州市国保衣川歯科診療所
佐々木勝忠

【どうして学生・研修医を受け入れているか】

私は、医科・保健・介護と連携のとれている施設で30数年間歯科治療をしてきて、歯科の素晴らしさや重要性、歯科医師の範疇の広さを臨床現場で実感してきました。

医療連携が進んでいるにもかかわらず歯科の重要性が認識されないのは、他職種の仲間に入っていけない歯科医師の心の障壁が問題と考えています。

そのようなことを学生に伝えたく、研修を引き受けています。



【衣川での2つの研修目標】

①超高齢者の歯科的重要性・歯科的範疇の広さを知る

臨床現場でどのように教えようとしたか

・実際の症例（ビデオ症例）をみる

・症例では医科的臨床と歯科的臨床を説明する

②連携の必要性と連携に乗れない要因を理解する

臨床現場でどのように教えようとしたか

・実際の現場、NST回診を体験する

【研修評価】　研修後の報告書・感想文から評価した
（歯科的重要性・歯科的範疇の広さ・連携の必要性・感想）

岩手医大歯学部5年生「地域医療体験実習」（H26）

内　容
症例検討
地域・施設見学
医科放射線CT見学
特養ホーム見学
昼食
医科歯科連携講話
胆沢病院NST回診
水沢病院口腔ケア指導









【衣川での研修目標】

①超高齢者の歯科的重要性・歯科的範疇の広さを知る

症例検討の一部分の紹介

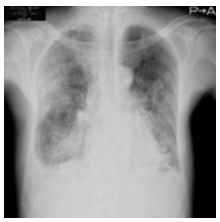
低栄養症例

舌下神経麻痺症例





肺炎で入院した低栄養のO・Uさん



2／3

Doctor　から家族への説明（３／１）

病名：誤嚥性肺炎とインフルエンザ
状態：傾眠（認知症、せん妄、うつ状態）
　　食事摂取の低下
問題点：低栄養
　①点滴のみ‥‥必ず弱る
　②強制的な栄養補給‥良くてベット上か
　　・経鼻胃管‥‥少し苦しい
　　・胃瘻‥‥‥‥‥本人の同意が必要

ただし、栄養補給を行っても必ずしも全身状態が良くなる保証はない。誤嚥性肺炎の危険性は変わらない。認知症の改善は期待できない。



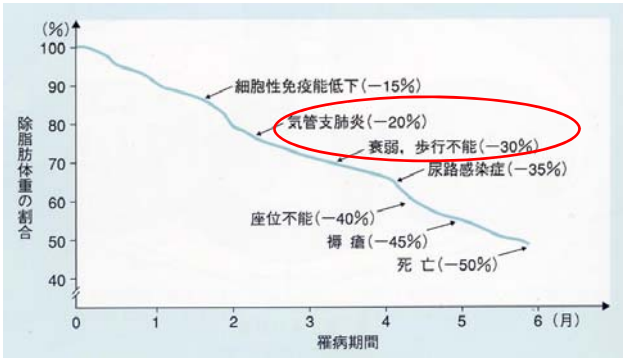

（ビデオ）

3／8　H17.2.16　Wt 55kg　Alb 4.3g/dl
18.3.02　Wt 42kg　Alb 2.4g/dl

体重減少率＝100(55-42)/55≒24%(12ヶ月)

ハイリスクの低栄養の評価	
体重減少率	アルブミン値
1ヶ月に　＞5.0% 3カ月に　＞7.5% 6ヶ月に　＞10.0%	＜ 2.5g／dl

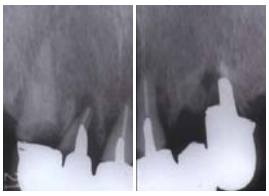
低栄養によって起こる症状



入院中の歯科治療




3／8　（ビデオ）　　3／13　（ビデオ）




O・Uさんの経過





栄養
ADL（日常生活動作・活動）




.9　19.1　.9

舌下神経麻痺のみられたS・Sさん

S・Sさん　85歳　女性

交代性麻痺 ☞ 脳幹に障害

症状（5月22日初診時の問診）
1ヶ月前より呂律が回らない（家族）
食べる時間が長くなったことに2・3週間前に気づいた（家族）
左目が小さくなった、口をふさいで呼気ができない（本人）
右手がしびれる（本人）
舌安静時に左側弛緩性麻痺、挺舌時に左側偏位がみられる

病名　脳梗塞（医科）
延髄梗塞による左側舌下神経麻痺（歯科）




H24. 5.22

安静位における左側弛緩性麻痺　　挺舌での左側偏位

PAPの装着と食事




（ビデオ）

【衣川での研修目標】

② 連携の必要性と連携に乗れない要因を理解する

岩手県立胆沢病院のNST回診見学



実際のＮＳＴ回診風景



看護師：義歯の問題、口腔乾燥
管理栄養士：中心静脈栄養、胃全摘でPEG不可
薬剤師：エルネオパ1号、ファモチジン
検査技師：Alb、PT、Hba1c
言語聴覚士：覚醒状態悪く嚥下リハ不可
歯科医師：PEG不可で腸瘻は？、TPNなら今後病院管理か？

【研修評価】 研修後の報告書・感想文から評価した
（歯科的重要性・歯科的範疇の広さ・連携の必要性・感想）

教えたい目標項目での評価（記載）で良好と思われた☞ ○

歯科の重要性	歯科範疇の広さ	連携の大切さ	感想
○	○	○	○
○	○	○	○
○		○	○
○	○		○
○			○
	○	○	○
	○	○	○
			？

（研修日程順位無関係）

咀嚼、食事でのQOL、歯科治療での全身状態の変化・全身管理の重要性を学んだ。
疾患の治療にとどまらず、リハや高齢者や障害者の支援相談も行える必要がある。
医師、薬剤師、介護士、栄養士でチームを作り治療を行う必要性を学んだ。
5年生のポリクリがなかなか思うように進まず気持ちが萎（な）えかけていたが。歯科医師になるということへの実感とやる気が沸いてきた。

大学を離れての実習の良さ（思いつくまま）

１、大学の臨床理論と違う場面もある臨床現場である

２、講義で学んだ症例を現実に見ることができる
（疾病・障害の臨床と歯科治療の臨床とを結び付けて）

３、講義で学んだ医療連携を現実に体験できる
（連携現場に出てみると他職種が快く迎えてくれる現実）

４、理論武装しないで本音を語れる臨床現場である

私にとって実習生を引き受けての良さ

教えるための勉強は、自分の向上につながっている

学生の実習後の報告書・感想文から（2）

5年生の「地域医療実習」を引き受けている国保歯科診療所（病院歯科）は岩手県内16施設中９施設ありますが、すべての施設で学生が満足しているわけではありません。

実習を引き受ける施設として
①、実習内容のある程度の統一
②、教育指導のあり方・方法などの研修

以上であります